

(29) 小宮神社 (おみやじんじゃ)

住所： 三重県伊賀市服部町1158

TEL： 0595-23-3061

参拝日：2014年1月15日、2014年10月21日

主祭神：呉服比売命

祭 神：健御名方命、大山祇命

境内神社：狭伯神社(天見屋根命、少彦命、 建速須佐之男命)



鳥居と狛犬



拝殿



4枚の扁額

由 緒 (三重県神社誌)

当社の創祀については、詳らかにはし 難い。社伝及び近世初頭成立の『惣 国 風 土記』には、天武天皇三年の創祀と記している。残念ながら、その後の発展についても伝えるところはない。祭神や当地の古代 における地理的な条件等から推測して、養蚕・機織の技術を持つ呉服部を服部氏が監督する立場からこの地に住み着き、服部氏の祖先神が祀られたと考えられよう。平安時代には、『延喜式』に伊賀国阿拝郡式内小社として、本社の名前がみられる。近世には、近郷の産土神として、人々に崇敬された。明治三十七年(一九〇四)大字服部鎮座の無格社山神社三社を当社境内社として移転合祀し、同三十九年さらに小宮神社に合祀した。また同年には、大字服部鎮座の無格社狭伯社、同境内社内に移転し、同時に小宮神社境内社津島社、大字服部鎮座の無格社春日社をも合祀して、これを狭伯社と称した。

小宮神社は住宅街にあり、それだけに鎮守の森が目立っている。25号線沿いにある服部バス停を降りるとすぐに石灯籠に挟まれて石造の中山鳥居があり、延喜式内小宮神社の石柱がみえる。阿吽の狛犬の間を抜けて参道を進むと左手に手水舎その後ろに境内社と弓道の的をおく盛り土がみえる。鳥居が西向きであるのに対し拝殿と本殿は南向きに鎮座している。拝殿の手前上には仰霊の扁額が掛かっており、奥の方の3つの扁額には“小宮神社”を挟んで右に蛭子社、左に春日社、狭伯社、津島社と書かれている。



本殿



弓道場

拝殿の手前上には仰霊の扁額が掛かっており、奥の方の3つの扁額には“小宮神社”を挟んで右に蛭子社、左に春日社、狭伯社、津島社と書かれている。

由緒にあるように小宮神社境内社である狭伯社（少彦名命）には春日社（天兒屋根命）と津島社（建速須佐男命）が合祀されている。本殿は5本の鰹木と外削りの千木がある神明造りで、その他社務所、参集殿、参籠舎、宝物殿などがある。社叢はシラカシ、ヒノキ、スギ、サカキ、マンリョウ、ヤツデ、サザンカ、エノキ、キツタ、ヤブツバキ、ムクノキ、ヤブニッケイ、モッコクなどで覆われている。

宝物として棟札一枚（慶安二年〈一六四九〉霜月一五日 本殿造営及び遷宮に関する銘文を有す）がある。

例祭は10月9日、七五三祭は11月16日、蛭子祭は11月19日、新嘗祭は11月23日で、月次祭が10回とりおこなわれている。